



えんだより

令和7年2月
旗川幼稚園



まめまき

はとぐみさんとうさぎぐみさんが植えたチューリップが、芽を出し始めました。季節は少しずつ春に向かっていくようです。

さて、体力作りの一環で行っているマラソンも、途中で止まることなく走り続けられるようになってきました。競争ではないことを理解し、一定の速さで走ることができるようになった証拠です。しかし、キョロキョロと視線が定まらず真っ直ぐに走れない子や、進む方向ではなく近くばかりを見てぶつかりそうになる子もまだ見られます。視線や走行ルートの急な変更の危険性を伝えながらさらに続けていきたいと思えます。

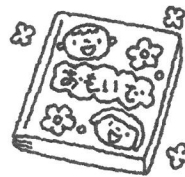
卒園や進級まであと1か月。体力や免疫力をつけて病気に負けない丈夫な体を作っていきましょう。

色々な事に挑戦中です



マラソンの後は、各クラスで集団遊びをしたり、縄跳びや鉄棒の練習をしたりしています。最近では、練習の成果が出始めてきたこともあり、積極的に取り組む子も増えてきました。「先生見てて」という声や顔に自信が見られます。

ところで、逆上がりも縄跳びも繰り返しの練習の中でいつの間にかできるようになっていたという経験はありませんか？何かができるようになるためには練習が必要です。諦めることも続けることも自分が決めることです。頑張った先にある成功体験を積み重ねる経験が諦めない気持ちを育てていきます。どんな時も励ましながらかみ守り、成功を子どもと一緒に喜んでいきましょう。



「いっぱい豆を投げるから泣かないよ」と言っていた子どもたちでしたが、いざ鬼を前にすると泣きだして逃げってしまう子もいました。ご家庭でも豆まきはしましたか？

ところで、一番小さいりすぐみやうさぎぐみも参加しました。私が目の前で被った鬼のお面でも泣いてしまう子がいましたが、怖い時は先生の所に逃げれば必ず助けてくれることを理解した子どもたちは、当日もしっかり先生にしがみつinaながら頑張っていました。

私たちは「泣くことなく参加できるようにすること」を意識して当日までの保育を考えます。「怖いけど頑張る」「泣かないで頑張る」という言葉を引き出し、立ち向かう勇気を持たせるようにしています。また、「怖かったら必ず助けるから先生の所に来てね」と伝えることで、見守られているという安心感が生まれます。その中で持っている力を十分発揮しようと頑張る気持ちや、怖くなったら先生が助けてくれるからいつでも逃げていいんだという思いを体験をさせています。わざわざ怖い思いをさせなくても良いのではとの考えもあるようですが、その経験には意味があると思っていますので、ご理解いただけたらと思います。

卒園式 3月17日(月)

残りわずかとなった園生活。楽しい思い出をたくさん作って送り出したいと思えます。

なお、りす・うさぎ・ひよこ・はとぐみは休園となりますのでご了承ください。

R6年度 職員自己評価の結果

R7.1.31実施

評価結果について

令和6年度の自己評価を行いました。結果は次の通りです。

◆評価の基準

- A 意識して行った
- B 意識したが結果としてできなかった
- C 意識しなかった

★ 次年度の課題

保育は、すぐに結果が出るものではありません。できるようにしなければと結果を求めてしまうと、子どもたちに無理な要求をすることが増えてしまいます。目の前にいる子どもたちと常に向き合う中で、日々下記のようなことを意識しながら保育することが、「できた・できない」で判断するよりも大切なことだと考えています。「意識したができなかった」ことにつきましては、個人が次年度の課題として掲げていますので、さらに保育の質が上がるよう職員一同努力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

1 幼児の保育に関する評価項目	
(1)計画	
① 園の教育課程の具体的実施計画として、長期、短期の計画を構造的に作成している。	A 70 % B 30 % C 0 %
② 個々の幼児の理解と発達状況に対応した指導計画を作成している。	A 90 % B 10 % C 0 %
③ 日々の記録をとり、自ら反省・検討するとともに教員間での話し合い、次の指導計画に生かしている。	A 90 % B 10 % C 0 %
④ チーム保育の場合に、互いの考えを十分に理解し合い指導計画を作成している。	A 90 % B 10 % C 0 %
(2)環境の設定	
① 幼児の自発的な活動を引き出し、ねらいを達成できる用具、材料を適切に準備し配置している。	A 80 % B 20 % C 0 % ★
② 幼児の実際の活動に合わせ、的確に環境を再構成できる。	A 90 % B 10 % C 0 %
(3)保育の在り方、幼児への対応	
① 園内に危険な箇所がないか、遊びはないか、活動が年齢や能力に対して危険ではないかなどを常に観察している。	A 100 % B 0 % C 0 %

② 個々の幼児の特性を理解し、幼児同士の関係を的確に把握している。	A 80 % B 20 % C 0 %
③ 個々に応じた働きかけにより、信頼関係を早期に築くことができる。	A 90 % B 10 % C 0 %
④ 幼児と共に動き、活動することを心から楽しむことができる。	A 100 % B 0 % C 0 %
⑤ 幼児のことについて常に教員同士で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	A 90 % B 10 % C 0 %
⑥ 支援児の特性を理解しかかわる中で担当教諭の指導に関心を持ち、情報を共有しようと努めている。	A 90 % B 10 % C 0 %
2 教師としての資質・能力・良識・適性	
(1)専門家としての能力・義務	
① 幼児や教育に関する情報を絶えずとらえようとしている。また、より高度な専門知識や技能を身に付けようとして研修している。	A 50 % B 50 % C 0 % ★
② 仕事の手順を考え、効率よくおこなっている。また、締め切りのある仕事や提出物は締め切り日をきちんと守っている。	A 60 % B 40 % C 0 % ★
(2)組織の一員としての在り方	
① 職員会議では他の意見を素直な気持ちで聞いたり、意見を述べたりすることができる。	A 80 % B 20 % C 0 %

② 子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、相談をしている。	A 90 % B 10 % C 0 %
(3)保育の喜び	
① 幼児と会話をしたり遊んだりすることが好きであり、ささやかな成長を理解しそれを喜ぶことができる。	A 90 % B 10 % C 0 %
3 保護者への対応・地域とのかかわり	
(1)情報発信	
① 幼児のことや自分の保育のことを、分かりやすく話すことができ、保護者との信頼関係を作ることに努めている。	A 90 % B 10 % C 0 %
② クラスや子どもの様子、自分の考え方、保育のポイントなどをクラスだよりなどで知らせている。	A 70 % B 30 % C 0 %
(2)地域とのかかわり	
① 地域の人々と親しく挨拶をしたり、地域の自然に関心を持ち保育に取り入れたりしている。	A 80 % B 20 % C 0 %
(3)小学校との連携	
① 小学校の教育内容について理解しようとし、卒園した子どもの情報を得るようにしている。	A 70 % B 20 % C 10 % ★